



宮崎大学 教育学部

宮崎大学大学院 教育学研究科

2027



宮崎大学
University of Miyazaki

- P 1 … 教育学部長 教育学研究科長 あいさつ
- P 2 … 教育学部・教育学研究科 トピックス(令和7年度)
- P 3, 4 … 教育学部について
- P 5, 6 … 大学院 教育学研究科 教職実践開発専攻(教職大学院)について
- P 7 … 学校現場で活躍できる教師を育てる様々な学び
- P 8 … 学部と研究科の就職・進路
- P 9 … 学部生・大学院生 生活
- P 10 … 附属施設



教育学部長 教育学研究科長
戸ヶ崎 泰子

宮崎大学教育学部は、明治 17(1884) 年に宮崎県尋常師範学校として設立されて以来 141年の歴史と伝統を有する学部です。この約 140年間一貫して教員養成に取り組むとともに、時代の変化に対応しながら、人文社会系や地域文化などに強い関心を持つ人材も輩出してきました。平成 28(2016) 年度に地域資源創成学部が新設されてからは、教員養成に特化した教育学部として新たな歩みを始め、現在は、小中一貫教育コース、教職実践基礎コース、発達支援コースの 3 コースで構成されています。また、令和 6(2024) 年度には、文部科学省「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」に採択され、宮崎県教育委員会と連携しながら、宮崎県の小学校教員を志望する学生を対象とした「ひなた教師セミナー」などを実施しています。さらに、教職大学院も設置しており、より高度な教育理論と実践力を身に付け、地域で活躍できる教員の養成にも力を注いでいます。

学校教員という職業は、子ども一人ひとりに向き合い、未来を切り拓く力を育てる崇高な職業です。学校教員を志望する人の多くは、これまでの学校生活の中で、先生とのさまざまな関わりを通して、「各自の教師像」を描いていることでしょう。本学部では、それぞれの学生が思い描く教師像を実現できるよう、多様な講義や段階的に教育実践力を育む教育実習を用意し、さまざまな分野を専門とする教授陣が、皆さんの学びを支えています。特に、観察実習や教育実習では、子どもたちが目を輝かせながら学ぶ姿に触れるとともに、現代の教育課題に対応した学校教育の実際を体験的に学ぶことができます。もちろん、学生さんの自主的な学修活動や学生同士の学び合いの機会も充実しています。

学校教員は、やりがいのある魅力的な職業であることは、多くの人が認めるところですが、その一方で、教員の多忙さや働き方改革の必要性が社会的に注目されていることも事実です。教師という仕事に関心をもちながらも、不安を感じている方もいるかもしれません。しかし、同じ志をもつ仲間とともに、大学・大学院で学び、学校現場の経験が豊富な大学教員から助言を得ながら学修を積み重ねることで、その不安は少しずつ和らいでいくはずです。そして、卒業する頃には、子ども一人ひとりに寄り添うことのできる「力のある若手教員」として成長していることでしょう。

教育学部・教育学研究科の役割は教員養成だけにとどまりません。現職教員への研修を通じて教育実践力の高度化を図ること、学校と地域の活性化に貢献することも重要な使命です。私たち、教育学部・教育学研究科の教員は、それぞれの専門性を活かしながら、学校や地域と確かな連携を築き、新しい時代を担う人材を育て、地域社会を支えていきたいと考えています。教育や地域の課題解決に向けて、一緒に取り組んでいきましょう。

ひなた教師セミナー開講

令和7年4月23日(水)、「ひなた教師セミナー」の開講式を開催しました。本セミナーは、宮崎大学教育学部と県教育委員会が連携し、「小中一貫教育コース小学校主免専攻『宮崎県教員希望枠』」の学生を対象に、令和4年度から開始された教員養成プログラムの一つです。この教員養成プログラムは全国的にも注目されており、文部科学省の「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」にも採択されています。



教育学部の学生が日本理科教育学会九州支部大会発表論文賞を受賞

本学教育学部4年の吉野早紀さんが、一般社団法人日本理科教育学会九州支部大会発表論文賞を受賞しました。この賞は日本理科教育学会九州支部大会発表論文集第51巻に発表した吉野さんの論文「中学校理科における形成的評価のための次世代型 CBTの開発ー生成 AIによる即時フィードバックの可能性ー」が優れた論文発表であるとして授与されたものです。



教育学研究科修了者が日本理科教育学会オンライン全国大会発表賞を受賞

教育学研究科修了者(現在:日南振徳高校教諭)の藤島旺志さんが、一般社団法人日本理科教育学会のオンライン全国大会発表賞を受賞しました。本賞は日本理科教育学会のオンライン全国大会2025において優れた研究発表を行った発表者に贈られるものです。



中村講師が日本科学教育学会の論文賞を受賞

本学教育学部理科教育講座の中村大輝講師が、日本科学教育学会の論文賞を受賞しました。本賞は中村講師が科学教育研究で発表した論文「馴染みのない研究方法を学ぶことで生じる科学教育研究者の変容ー主として量的研究方法を用いている研究者による質的研究方法の学びを事例にー」が特に科学教育研究の発展に大きく寄与したと認められ表彰されたものです。



教職大学院生が「外所地震」の伝承を題材とした防災学習を開催

令和8年2月5日(木)、宮崎市立古城小学校の4年生19名を対象に、地域に伝わる大地震「外所地震」をテーマとした防災学習フィールドワークを実施しました。今回のフィールドワークでは、本学教職大学院2年の2人が講師となり、紙芝居「とんところ地震」の実演や防災クイズの出題、石碑「外所大地震追悼供養碑」および「外所地震津波慰霊碑」についての説明を行いました。



地域教員希望枠フォーラムを開催

令和8年2月13日(金)、錦本町ひなたキャンパスにおいて「地域教員希望枠フォーラム」を開催しました。近年、教員不足が全国的な課題となる中、教育学部では「宮崎県教員希望枠」を設け、宮崎県教育委員会と緊密に連携しながら教員養成に取り組む、令和6年度文部科学省「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」に採択されました。今回のフォーラムは、これまでの取組の成果を広く発信するとともに、教員養成に携わる大学間での情報共有を図ることを目的として開催したものです。



教職を目指す高校生のための「教職キャリア・スタディツアー」を開催

令和8年2月21日(土)、宮崎大学木花キャンパス創立330記念交流会館コンベンションホールにおいて教育学部教職実践基礎コース主催による「教職キャリア・スタディツアー2026」を開催しました。本イベントは、教職を目指す高校生と、大学生・大学院生、若手現職教員が語り合いながら、これからの教職の多彩な展望を共有することを目的として企画しました。



多様な学びを通じて、
社会に貢献できる教員を目指そう

教育学部

教育学部は、現代の様々な教育課題に対応でき、子どもたちの成長をしっかりと支え続け、新しい時代を切り拓く、小学校・中学校・小中一貫校・幼稚園・特別支援学校等の教員を養成します。

本学部では、コース毎にカリキュラムが組まれ、学校現場に関わる諸問題や児童・生徒の心身の諸問題、各教科の内容を専門的に学びます。また、それと共に介護体験実習、教育実習といった、教員に必要とされる、より実践的な教職科目も学習します。



各コース詳細はこちら

取得できる教員免許状

課程・コース等			免許状	小学校教諭 普通免許状	中学校教諭 普通免許状	高等学校教諭 普通免許状	特別支援学校 教諭普通免許状	幼稚園教諭 普通免許状
学校 教育 課程	小中一貫 教育コース	小学校主免専攻	1種	2種 1種	1種	2種	2種又は1種	
		中学校主免専攻	2種 1種	1種	1種	2種	2種	
	教職実践基礎コース	教職実践基礎専攻	1種	2種又は1種		2種	2種又は1種	
	発達支援 教育コース	子ども理解専攻	1種	2種		2種	1種	
		特別支援教育専攻	1種	2種		1種	2種又は1種	

1. 太字は卒業時に取得できる免許、細字は各種条件が合えば、取得できる可能性のある免許の例です。詳細は、入学後に教務・学生支援係にお問い合わせください。
2. 本学学校教育課程で課程認定を受けている中学校及び高等学校の免許教科は次のとおりです。
中学校: 国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術・家庭・英語
高等学校: 国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・保健体育・工業・家庭・英語
3. 本学学校教育課程で課程認定を受けている特別支援学校の免許の領域は、知的障害・肢体不自由・病弱の3領域です。聴覚障害・視覚障害の領域については、取得できません。
4. 学芸員の資格: 所定の単位を修得し、申請すれば「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
5. 学校図書館司書教諭の資格: 司書教諭講習を受講し、必要単位を修得すれば「修了証書」が交付されます。

宮崎県教員希望枠（小中一貫教育コース小学校主免専攻）

みやざき教員育成システム

宮崎県教員
希望枠特集
ページ



宮崎大学教育学部と宮崎県教育委員会が強固な連携のもとに実施する、大学入試から教員就職後までの一貫した教員養成の取組です。「宮崎県教員希望枠（小中一貫教育コース小学校主免専攻）」で入学した学生が対象です。全国に先駆けての取組で、文部科学省事業「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」に採択され、他大学からも熱い注目を集めています。



研究室紹介 本多 正敏先生

専門領域 / 英語学



「英語を知っていますか？」と問われたら、あなたはどのように答えますか？「英語を知る」って何を知ることになるのでしょうか。英語学は、英語母語話者が持つ多様な文法知識の解明に取り組む分野です。本研究室では、英語への知的関心を育みながら、コミュニケーションを支えることばの仕組みと英語教育の接点を探究しています。

本コースは、小学校・中学校、および小中一貫教育校の教員養成を目指すコースです。児童・生徒の9年間の発達を見据え、それぞれの段階に柔軟に対応できる指導・支援力と、教科の専門性を兼ね備え、小・中学校教育の連携を構想・実践できる教員を育成します。小学校と中学校の両方の教諭免許状が取得できる、時代の要請に応じたコースです。

小学校主免専攻 定員 70名

学校教育の出発点となる初等教育は、次世代を担う子どもたちを育む上で極めて重要です。本専攻では、小学校教員としての基盤となる資質を高めるとともに、10の専修(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)での学修を通じ、特定の教科にも強みを持つ専門性の高い教員を養成します。



中学校主免専攻 定員 35名

児童期から青年期へと移行する多感な時期は、子どもたちの将来に大きな影響を与えます。本専攻では、こうした発達過程を幅広い視野で見通す力と、9の専修(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語)から1つを選択して深く学ぶことで培われる、高度な専門性を併せ持った教員を養成します。



本コースでは、地域に根差す学校づくりの中心となる小学校教員を養成しています。教職大学院への進学を前提とした、6年間を見通したカリキュラムを編成するとともに、市町村教育委員会等と連携した教育現場でのフィールドワークが学部1年次から充実しています。令和6年度から文部科学省・地域活性化人材育成事業 (SPARC)に参加し、地域社会と連携した人材育成の充実に取り組んでいます。

定員 15名

子ども理解専攻 定員 10名

本専攻では、幼児期から児童思春期にわたる子どもの心理、発達過程を見通す深い見識と理解力、教員としての使命感、責任感、教育的愛情を身につけた教員を養成します。さらに、心理学の理論と知識を学び、科学的・実証的に問題を解決していく思考力と実践力を身につけることを目指します。

最新の心理学の知識と技術を活用して学校教育における子どもの心の健康、主体的に学ぶ授業づくり、子どもと家族の抱える問題を改善する力を養います。



特別支援教育専攻 定員 10名

知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害、発達障害等の児童・生徒が抱えている課題や困難に対する指導や支援をするために必要な知識や技能などの専門性を身につける学修を通じて、障害のある児童・生徒の心身の発達を促し、将来の自立や社会参加を実現することのできる特別支援学校の教員を養成します。



大学院 教育学研究科 教職実践開発専攻 (教職大学院)

教職実践開発専攻は、学校教育に関する理念及び応用を教授し、高度の専門性が求められる教職を担うための学識及び実践力、応用力を培うことを理念としています。

そして、学部における専門教育又は教職経験の基礎の上に、確かな教育観と幅広い視野を持ち、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校等の高度の専門的な能力及び優れた資質を有する教員養成のための教育を行うことを目的とします。



各コース詳細はこちら

教職実践 高度化コース	教育行政・学校経営分野(管理職養成を含む)
	生徒指導・教育相談分野
	教育課程・授業研究分野
教科領域指導力 高度化コース	言語教育系(国語、英語)領域
	理数教育系(数学、理科)領域
	社会認識教育系(社会)領域
	芸術教育系(音楽、美術)領域
	スポーツ・生活科学教育系(保健体育、技術、家庭)領域
特別支援教育コース	



教職実践開発専攻(教職大学院)の特徴

- ① 宮崎県及び宮崎市の教育行政機関と連携して、教職としての高度の実践力・応用力を備え、地域に根ざす学校づくりの有力な一員となり得る新人教員、及び教職としての高度の実践力・応用力を備え、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員に必要な不可欠な確かな教育理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーの養成を行います。
- ② 授業は、教育に関する理論と実践の融合を視野に入れて、専任の研究者教員、実務家教員、及び学部との兼任教員の協働によって進められます。
- ③ 各コースとも、研究者教員と実務家教員の協働による授業科目を設定するとともに、現職の教員、大学卒業見込み・卒業生等及び社会人経験者の学修歴に配慮した内容や学習方法を準備しています。
- ④ 修了者には、専門職学位「教職修士(専門職)」が授与されます。また、各校種の専修免許状が取得できます。



大学院生の課題研究テーマ ※一部抜粋

- ・道徳科を中心とした平和教育プログラムの開発 ―小学校3年生におけるプログラム構想と実践事例の分析―
- ・中学校数学科における問題解決の授業が学習意欲に及ぼす影響についての考察
- ・小学校外国語の読み聞かせにおけるリスニング方略の変容
- ・学力向上を目指す学校規模ポジティブ行動支援
―媒介変数としての授業参加行動並びに主観的学校適応感への介入―
- ・ウェルビーイングの実現に向けた教員と学校事務職員との連携・協働体制の意義と条件
―宮崎県公立小中学校事務職員の意識から―

過去の課題研究テーマなど詳細はこちらから



教職実践高度化コースは、「教育行政・学校経営分野」、「生徒指導・教育相談分野」、「教育課程・授業研究分野」という3つの分野から学生自身がどの分野を中核として学ぶかを選択し、学生それぞれの学修歴・実務歴に合った学びのプロセス構築が可能になっています。

各分野に関する教育理論を学修するとともに、学校現場での事例分析等、理論を活用した具体的な実践の意義づけとそれを踏まえた実践プランの再構築といった、理論と実践の往還を可能とする自立的・共同的な成長する教員としての資質・能力の修得を目指した科目を取り入れています。

教育行政・学校経営分野（管理職養成を含む）

教育行政・学校経営分野では、教育法規を学び公教育の法律主義を理解したうえで、学校・学級経営、教育評価、地域連携、研修プログラム開発を学びます。将来の指導主事やスクールリーダーを養成します。理論と実践の往還の実践として、教育委員会定例会や小規模特認校への実地見学だけでなく、危機管理能力向上のために、さす又や記者会見の実技演習も実施しております。課題研究では、「教員の働き方改革」や「ルーブリック評価」、「地域教育経営計画」や「研修プログラム開発」に取り組み、積極的に学会発表と学会誌への投稿に取り組んできました。

生徒指導・教育相談分野

生徒指導・教育相談分野では、SST や構成的グループエンカウンターなどの技法を用い、レジリエンス教育、スクールワイドPBSの実践などの場で、発達支援的・課題予防的生徒指導を軸に企画・実践する力量を養います。また、QU やアセス、代表的な知能検査、各種行動評価等のアセスメントの実施や結果に基づいて、指導や支援を行うための知見と技量を高めます。また、教育支援教室、児童自立支援施設、鑑別所等の学外の施設に赴いて学びを拡げています。さらに、教育相談における傾聴技法や通常の学級に在籍する発達障害の特性をもつ児童・生徒の理解、ケースフォーミュレーションやカンファレンスなどで、支援を計画・実践するための知見と技量を高めます。この分野のカリキュラムは、学校心理士（一般社団法人学校心理士認定運営機構）の資格取得に合致した構成になっています。

教育課程・授業研究分野

教育課程・授業研究分野では、学習集団づくりを含めた授業実践力を育成するために、授業づくりや授業分析の手法を学び、授業の相互検討や議論を通して、自分自身の授業実践を省察する力を育成します。

また、熟練教師の授業視察・検討を通して、学校現場のさまざまな状況や子どもの実態に応じた指導の手立てや授業のあり方を学習します。

教科領域指導力高度化コースは、コース必修・選択科目と「教育実習科目」との連動によって、より児童生徒の実態を踏まえた授業実践・分析・評価・改善といった実地的な学修が可能です。

指導力の改善・検証のみならず、学校現場をフィールドとした実地的・実践的な学びを通じた教科領域の教育に関する指導力の高度化が可能な設定になっています。

特別支援教育コースでは、「特別支援学校教員や特別支援学級担当教員等に求められる専門的指導力の向上」を目指してカリキュラムを編成しています。具体的には、児童生徒の実態把握に不可欠なアセスメント技法や、特別支援学校における教育課程の編成、教育目標に即した授業の構成・展開について、実践的に学ぶことができるよう、アクティブラーニングを積極的に取り入れた授業を展開しています。また、「障害のある子どもの事例研究法」等での学びを課題研究へと発展させることで、理論や根拠に基づいた高度な教育実践力や実践研究力の向上を図っています。さらに、「特別支援教育コーディネーター論」等では、地域の医療・福祉・労働分野との多職種連携について理解を深めるとともに、校内支援体制の整備やセンター的機能の充実を担う力量の形成にも取り組んでいます。

学校現場で活躍できる 教師を育てる様々な学び

教育実習



宮崎大学教育学部では、附属学校園や公立学校、県立特別支援学校との連携を通して、多様な教育現場での学びを積み重ねる教育実習を展開しています。

小中一貫教育コースおよび教職実践基礎コースでは、附属小・中学校において、2年次に実習Ⅰ「観察・参加」、3年次に実習Ⅱ「基本・展開」を行います。さらに、小学校と中学校の9年間を見通した教育実践力を育成するため、3年次には実習Ⅲ「異学校種」を実施します。小学校を主免とする学生は附属中学校で、中学校を主免とする学生は附属小学校で実習を行い、異なる学校種の教育活動を体験します。4年次には、公立学校において実習Ⅳ「応用」を行い、これまでに身に付けた知識や技能を、より実践的な場面で発揮します。

発達支援教育コースでは、2年次に附属小学校で実習Ⅰ「観察・参加」を行います。その後、子ども理解専攻では附属幼稚園における幼稚園観察実習を、特別支援教育専攻では県立特別支援学校における特別支援学校観察実習を経験します。

さらに、子ども理解専攻では、3年次に附属小学校で実習Ⅱ「基本・展開」を行ったのち、4年次には公立小学校での実習Ⅳ「応用」または附属幼稚園での幼稚園教育実習に取り組みます。特別支援教育専攻では、3年次に附属小学校で実習Ⅱ「基本・展開」を行い、4年次には県立特別支援学校で特別支援学校教育実習を行います。

課外活動

五ヶ瀬町での活動

五ヶ瀬町のオープンスクールに参加して、へき地・小規模の学校での教育を体験的に学習したり、小・中学生の活動のサポートをしたりして学びを深めています。また、教職大学院「小規模校のカリキュラムマネジメントと授業づくり」(選択科目)では、五ヶ瀬町の複式学級を含む小規模の小・中学校で実践的な学修をしています。



保健体育講座 野外スポーツ実技研修 スキー・スノーボード

保健体育講座では、毎年スキー・スノーボードの野外実技研修を実施しています。雪中での生活や活動を体験しながら自然環境への理解を深めるとともに、スポーツ技術や安全管理、指導方法を学び、小・中学校教員として必要な実践力を養っています。



ボランティア

本学部・研究科はボランティア活動も盛んで、多くの学部学生・大学院生が、学校での教育活動や地域の学習支援活動などに参加しています。令和7年度には、特別支援教育専攻の学生が取り組んでいる肢体不自由のある子どもを対象としたボランティア活動が認められ、第743回「小さな親切」実行章を受章しました。



学部と研究科の 就職・進路

卒業生における教員就職者数割合

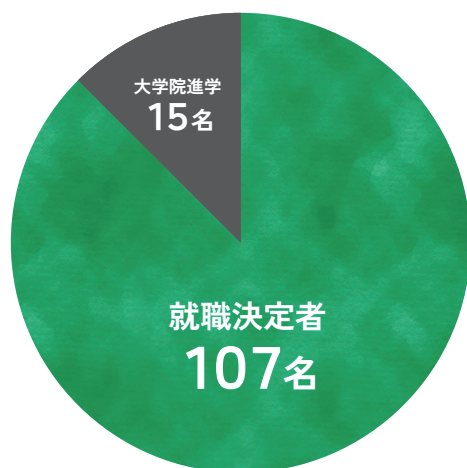
	教員就職率（正規＋臨時） ※進学者・保育士除く	
令和7年度卒業生	88 / 109（人）	80.7%
令和6年度卒業生	91 / 107（人）	85.7%
令和5年度卒業生	77 / 95（人）	81.1%
令和4年度卒業生	82 / 105（人）	78.1%
令和3年度卒業生	80 / 104（人）	76.9%

全国4位

全国6位

※「教育就職率（進学者・保育士を除く）」は、卒業生数から大学院等への進学者と保育士への就職者を除いた数を母数とした場合の教員就職率（％）である。

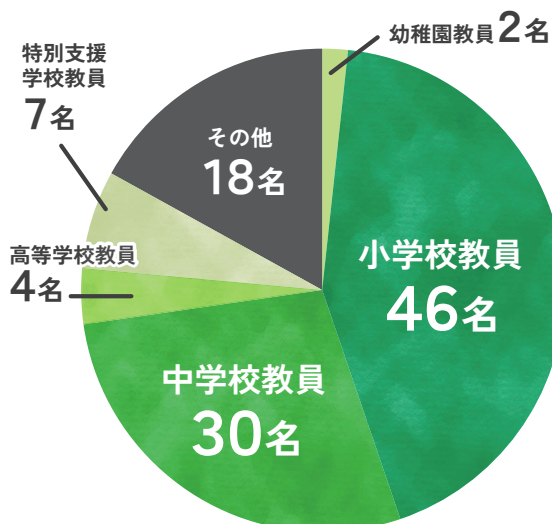
令和7年度教育学部卒業生



令和7年度教育学研究科修了者



令和7年度教育学部卒業生の就職者の職業別



令和7年度教育学部卒業生の主な就職先

【学校】

宮崎県内の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校、
宮崎県外の幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校

【その他】

学習塾イノセント、国立大学法人宮崎大学、株式会社テレビ宮崎、
株式会社アルビオン、浄土真宗本願寺派宗務機関、株式会社ワ
ールドサプライ、ピーエムジー株式会社、日本料理 FUJI、
TOPPAN 株式会社、しゃぶしゃぶ美山 宮崎店



㊦ 学部生のある1日

- 07:00 ● 起 床 本当は6:30に起きてゆっくり準備したいけどギリギリに起きます。
- 07:40 ● 出 発 家が学校から遠いので遅くても1時間前には家を出ます。
- 08:30 ● 学校到着 授業のある教室に向かいます。
- 08:40 ● 1限目スタート (初等図工科教育法ⅡB)
- 10:10 ● 1限目終了
1限目と2限目の間の休み時間は20分あるので、この時間で朝ご飯を食べたり、学食や生協にお菓子を買って行ってみんなで食べたりしています。
- 10:30 ● 2限目スタート (道德教育論)
- 12:00 ● 2限目終了 (お昼休み)
音楽棟でお友だちとお弁当を食べたり、課題をしたりしています。次の時間が空きコマの時は青島や市内の方にご飯を食べに行くこともあります。
- 13:00 ● 3限目スタート (指揮法)
- 14:30 ● 3限目終了
- 14:50 ● ひなた教師セミナー
宮崎県教員希望枠で大学に入学したため、月に一回大学でひなた教師セミナーを受講します。教員の仕事に関することや、宮崎の企業の話、マナー講座など様々なことを学ぶことができます。
- 16:20 ● 下 校
- 17:30 ● アルバイト
- 21:30 ● 帰 宅
- 23:30 ● 課 題
- 00:30 ● 就 寝



休日の過ごし方

月に1、2回、所属している団体のボランティア活動に参加しています。また、月に1回行われている、「ひなた教師塾」にも毎月参加しています。アルバイトも基本土日のどちらかで行っています。私は海をみるのが好きなので、よく友だちと海に行ってお散歩しています。



㊦ 大学院生のある1日

- 08:00 ● 起 床 朝起きたら、軽くストレッチをするようにしています。
- 10:30 ● 講 義 教科教育や学級・学校経営、教育課程などについて幅広く学びながら、模擬授業などにも取り組み、理論と実践を往還させて学んでいます。
- 12:00 ● 昼 食 ゼミ室で友人と昼食を取ります。課題の共有や、研究の相談などをします。
- 13:00 ● 講 義 実習へ向けて、何をどのように教えようか等、素材・教材研究をしています。
- 14:30 ● 課題研究 子どもたちができた!分かった!と思えるような体育科授業を実現させるための教師の働きかけについて研究しています。論文を読み、ゼミの仲間や先生とディスカッションします。
- 19:00 ● アルバイト 塾で、小学生の算数と中学生の英語を教えています。
- 22:30 ● 帰 宅
- 24:00 ● 就 寝



休日の過ごし方

休日は、県外や宮崎市外にランニングに出かけ、その土地の景色を楽しみながら走ることにまっています。

走った後は近くの温泉でリフレッシュし、帰宅後は祖母の家で犬と散歩や昼寝をします。心を落ち着かせてリフレッシュできる過ごし方が好きです。



附属施設

附属幼稚園

附属幼稚園は、昭和 42 年に教育学部校舎の一部を園舎として開設され、平成 5 年に現在の園舎が完成し、平成 29 年度には創立 50 周年を迎えた、歴史ある幼稚園です。

「生き生きと活動できる子どもを育てる」という教育目標のもと、広い園庭や大学所有のビオトープなど豊かな自然環境の中で、自発的な活動である「好きな遊び」を尊重した活動を展開しています。

身近な人とのあたたかいかわり合いを大切に、遊びを通して幼小中一貫した資質能力の基礎や学びに向かう力等を育みます。また、コミュニケーションスキル活動を行うことで、人との心地よいかわり方を身に付けたり、年長児期には集団活動や交流活動で小学校進学を意識したりすることができるような教育に取り組んでいます。さらに、PTA活動も伝統的に充実しており、親子で楽しく心豊かになる幼稚園づくりをめざしています。



附属小学校

附属小学校は、明治 26 年に宮崎県尋常師範学校附属小学校として設立された 130 年以上の歴史を刻む学校です。

「ともだちいっぱい あせいっぱい まなびいっぱい ゆめいっぱい」を教育目標として掲げ、その実現のために、保護者の理解・協力のもと、子どもと教師が一体となって様々な教育活動に真剣に取り組んでいます。特色ある教育活動として「いとし子命の集い」があります。研究推進校としての活動には、公開授業研究会や公開研究会などがあります。PTA活動も伝統的に盛んで、「わんぱくフェスタ」や「PTCA 活動」などの楽しい行事もあります。学ぶ楽しさや分かる・できる喜びを実感できる毎日になるよう、また他者を思いやる豊かな心が育つよう充実した教育活動を展開しています。



また他者を思いやる豊かな心が

附属中学校

附属中学校は、昭和 22 年に宮崎師範学校の附属中学校として開設された歴史と伝統のある学校で、これまでに 13,000 人以上の方々が、この学舎を卒業され、県内はもとより国内外の各界、各方面で活躍されています。

「真理を探究し、勤労を愛する、気品のある生徒の育成」を教育目標に掲げ、特色ある教育活動を保護者の理解・協力のもと展開しています。

具体的には、時事への関心を高め、SDGsの視点を取り入れながら自分自身の見解を深める NIE 教育活動、人権教育の一環として、生徒、保護者、教師、カウンセラーが一堂に会する PTCC 討論会、キャリア教育を基盤にした総合的な学習の時間では、「君たちは宮崎のためにどう生きるか」をテーマにした、新たな仕事を創造する探究活動、学年を超えた縦割りの集団で活動する体育大会、橘祭、清掃活動等々があります。

本校の使命である教育実習校としての教育の充実を図るとともに、研究推進校として、教科や総合的な学習の時間の公開研究会、授業研究会を実施し、地域に貢献できる学校をめざし、魅力ある教育活動を展開しています。



特別支援学級

附属小学校と附属中学校には、特別支援学級が設置されています。特別支援学級では「自立と社会参加」という大きなねらいに向けて、各教科等の学習をはじめ、各教科等を合わせた指導、校外学習なども取り入れながら特別的教育課程を編成して教育活動を展開しています。

交流及び共同学習も計画的に実施し、特別支援学級の子どもと通常の学級の子どもが互いにかかわり合い、学び合いながら学習する姿も見られます。また、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある子どもへの支援についても、学級担任と連携を取りながら実践しています。



附属教育センター 開発・協働

附属教育協働開発センターは、宮崎県内の学校や教育委員会、地域社会と連携を図り、実践的指導力を持つ教員の養成及び現職教員の研修等に関するプログラム開発や教育研究の推進、学校教育における教育実践に関する研究を総合的に行うことを通して、学部、大学院及び地域社会における教育の発展充実に寄与することを目指しています。

教師教育部門と授業研究部門の 2 部門に整理し、令和 4 年度は、紀要の発刊と宮崎県教育庁派遣研究生等の受入れに加えて、宮崎県教育研修センターとの協働、市町村教育委員会との連携事業や学校を単位とした授業研究などに取り組んでいます。



